

式辞 令和7年度第2学期終業式

皆さん、おはようございます。

時の経つのは早いもので、本日こうして二学期の終業式を迎えることができました。

学校行事に、部活動に、そして日々の学習活動に真剣に向き合ってきた皆さんの努力に、心から拍手を送りたいと思います。

もうすぐ令和7年が終わります。この1年を振り返ってみて皆さんには、どんなことを思い浮かべるでしょうか？

皆さんは「七味五悦三会（しちみ・ごえつ・さんえ）」という言葉を聞いたことがありますか。

大晦日に家族で一年を振り返る、昔からの温かな風習を表したものだそうです。

「七味」とは、今年食べておいしかったものを七つ。

「五悦」とは、今年嬉しかったことを五つ。

「三会」とは、今年心に残った出会いや、再会を三つ。

こうした小さな出来事を思い返してみようというものです。皆さんは何を思い浮かべますか。

「七味」は、美味しかったものです。ごちそうでなくとも構いません。夜食で食べたおにぎりが美味しかったこと、友人と行ったファーストフードが最高だったこと。そんな何気ない一場面も、立派な“七味”的ひとつです。

「五悦」は、嬉しかったこと。大きな成功でなくていいのです。できなかつた問題が解けたこと、落ち込んでいた時に友達に励まされたこと、誰かに「ありがとう」と言ってもらえたこと。小さな喜びを数える時間です。

「三会」は、心に残った出会いです。今年仲良くなった友人、心に響いた先生の言葉、久しぶりに会った友人と交わした会話など、人のつながりから得た温かさを思い返してみてください。

昔の人は、こうして一年の「七味五悦三会」を数え上げることで、「今年は良い年だった」と感じていたそうです。

1年の中には辛いことや、嫌だったこともあるはずです。しかし、どんな年であっても、小さな幸せは必ずある。そのことに気付くための、静かであたたかい知恵なのかもしれません。

人は、こうして自分の中の小さな幸せを丁寧に振り返ることで、自然と前向きになり、次の年を頑張ろうという力が湧いてきます。どうか皆さんも、自分なりの「七味五悦三会」を見つけ、「自分にはこんな幸せや成長があった」と確かめながら、新しい年を迎えてほしいと思います。

人生にはさまざまな出来事があります。その中で、自分の心を整え、前へ進もうとする力を持つ人は強いと私は思います。

皆さんが、学校生活を通じて、その力を確実に育ててくれていることを嬉しく思っています。

年末年始は、1年間頑張った自分自身を労い、家族や友人との時間を大切にしながら、心をゆっくりと整えてください。

そして三学期、また皆さんの元気な姿に会えることを楽しみにしています。

令和7年12月19日

愛媛県立北条高等学校長 菊池 正敏